

# 大腸癌における新たな病理学的再発予測因子の意義に関する2施設共同研究

## 1. 研究の対象

1984年1月～2010年12月に当院で大腸がんの手術を受けられた方

## 2. 研究目的・方法

従来から大腸癌治癒切除症例の術後の治療方針を決定する最も重要な因子は、深達度とリンパ節転移からなる進行度分類とされています。しかしながら大腸癌術後補助化学療法が多様化に伴い再発リスク予測の重要性が増している現状では、治療選択の指標は進行度分類では十分とは言い難く、より再発の危険性を鋭敏に反映する悪性度分類の確立が求められています。

このような背景をもとに、防衛医科大学校外科学講座では大腸癌患者さんの術後治療に有用な病理組織学的指標の研究を継続してきましたが、特に低分化胞巣、線維性癌間質、簇出、リンパ球集簇（Crohn's-like lymphoid reaction）といった新しい病理組織学的指標が大腸癌の悪性度を大きく反映する因子である可能性が示されています。

本研究では日常の病理検査用に作成される病理組織標本を用い、これら4指標の臨床的意義を防衛医科大学校病院と財団法人癌研究会有明病院の2施設で検討します。すなわち、これらの所見の再発や生存率への影響の重みについて多数症例を用いて解析し、術後の抗がん剤治療の適応決定や術後経過観察における検査内容や間隔の選択に寄与できるかを明らかにすることが本研究の目的です。

研究期間は、本研究に関する学校長承認後から2020年12月31日までの予定です。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、病歴、治療歴、病理検査所見、再発等の発生状況等

試料：手術で摘出した組織等

## 4. 外部への試料・情報の提供

研究施設間の情報提供は、パスワードで保護された匿名化データを電子的配信で授受し、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。匿名化の対応表は、当センターの研究責任者に指名された医師が保管・管理します。

## 5. 研究組織

がん研有明病院大腸外科 小西 毅

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

**照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：**

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

防衛医科大学校 外科学講座 梶原由規

電話：04-2995-1637 FAX：04-2996-5205

**研究代表者兼責任者：**

防衛医科大学校外科学講座 上野 秀樹